

第2回北海道SDGs推進懇談会 議事概要

1 日 時：平成30年8月22日（水）14：00～16：30（かでの2.7 6階 620 会議室）

2 出席者：[構成員] 有坂 美紀 大崎 美佳 柏村 章夫 小泉 雅弘 定森 光 清水 誓幸
菅原 亜都子 鈴木 昭徳 野吾 奈穂子 吉中 厚裕

【五十音順、敬称略】

【10名出席】

3 主な発言内容

【(仮称)北海道SDGs推進ビジョンについて】

- 「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」にSDGsが掲げられていて、「誰一人取り残さない」ことや「経済、社会、環境の調和」が強調されている。この2つは、日本政府の「持続可能な開発（SDGs）実施指針」でも強調されているので、北海道のビジョンの中にも入れていくべき。
- 道の総合計画や施策を基本とするのではなく、国連のアジェンダをベースとした、バックキャストで策定を進めるべき。
- ビジョンの骨子案にあるステークホルダー以外にも、北海道ならではの特に配慮すべきグループを取り上げた方がよい。
- 計画策定時や評価時など、あらゆるフェーズにおいてジェンダーの視点を取り入れるといった文言を入れて欲しい。また、取り残されやすい存在といった視点、男女平等といった視点からも、ジェンダーについて記載して欲しい。
- 多様なステークホルダーが共有するビジョンとするならば、ビジョンの策定や策定後のモニタリング等にも多様なステークホルダーが関与すべき。
- 「ステークホルダー」という言葉は、一般の人にも分かるような形で表現した方がよい。
- このビジョンが誰のためのもので、誰に向けたものなのかが見えにくい。様々なステークホルダーも責任の主体であるということが見えるようにすべき。
- 北海道の強みを伸ばすというだけではなく、最も遅れている、取り残されている存在を意識した優先課題にすべき。また、この優先課題に取り組むために、モニタリングや進捗状況の評価は必要であり、透明性と説明責任の観点から、専門性のある多種多様な視点によって行われる体制を作っていくべき。
- 「北海道の現状・課題」では、歴史的背景を踏まえた課題の設定や分析をして欲しい。
- 「世界に輝く」部分と「誰一人取り残さない」部分、あるいは北海道の「強み」と「弱み」といった両方の視点を取り入れていく必要がある。
- 「めざす姿」の「世界の中で輝きつづける北海道」については、キャッチコピーとして言うならば、「誰ひとり取り残さない北海道」が適切ではないか。

- ビジョンの名前は、「北海道SDG s 達成ビジョン」又は「北海道SDG s ビジョン」が適切と思う。ビジョンというのは将来像であるので、北海道としてSDG s の取組を広めていきたいというものであれば、ビジョンではなく、推進プランという名称になるのではないか。
- 各主体の取組の参考となる「取組イメージ」については、SDG s と自分自身との関連性や、「北海道の現状・課題」に示した課題などに興味のある方が、既にそうした課題に対して取組を行っている団体等に分かるような内容を記載するとよいのではないか。
- 「取組イメージ」で示そうとしている先進的事例については、それぞれの主体によってその捉え方が様々であることに留意する必要がある。
- 指標の設定と進捗管理はしっかり行うべき。SDG s もアジェンダ策定の1年後に指標ができたことを踏まえ、ビジョンの策定から少し遅れてもいいので、専門家の意見を聞きながら、しっかり時間をかけて指標を作っていくべき。
- 今後の取組の方向性として、ステークホルダーとの定期的な意見交換や政策協働などの具体的な連携内容やSDG s 達成に向けた市町村への支援の体制、北海道が世界に対し貢献できることなどを記載して欲しい。
- 道がSDG s の推進を図ろうとしていることをチャンスとして捉え、企業の中にも浸透させるきっかけとしたい。
- ビジョン達成に対して、セクターそれぞれにどのような責任があるのかということを確認していく必要があり、その責任を認識した上で各セクターが変革を起こすべき点を明確化していくべき。
- ビジョン達成のための行動計画を策定し、達成に至るまで計画の内容を常に見直して取り組んでいく必要がある。
- ビジョンについては、細かく色々なことを網羅するというより、SDG s に取り組んでいくということを示すことが重要。SDG s はまだまだ世の中で理解されていないので、行動計画を進めていくことも大事かもしれないが、まずはSDG s の取組について「0」を「1」にするということが必要。
- 道民が課題解決の行動をするためのガイドラインだけではなく、道の政策にSDG s の考え方が反映されるような、政策のためのガイドラインとしての位置付けも行うべき。
- SDG s を既に意識して取り組んでいる人には「余白を作る」といった、そうした人達が関わりやすい余地を残した内容とすべきだが、SDG s をまだ十分に意識していない人には具体的な取組イメージ等が必要だと思う。

【北海道SDG s 推進ネットワークについて】

- ネットワークについて、道内の179の全市町村が必ず入る形で進め、全市町村に情報が届く体制を作りたい。
- 自治体とのパイプといった道庁ならではの強みを活かしてSDG s の実現に向けて取り組んでいただきたい。その中で連携してできる部分は、既にSDG s に取り組んでいる団体と一緒にできるといい。